



米子市埋蔵文化財センターたより

第30号

2018年9月



たたら山の山内遺構か？ 日南町新屋宮ノ段遺跡



発見された総柱式の大型建物跡

5月から調査を再開した日南町新屋宮ノ段遺跡の発掘調査は、いよいよ大詰めとなりました。これまでの調査で、同じ向きに建てられた総柱式の大型建物跡を2棟と中世後半の精錬鍛冶炉1基、近代の瓦生産に関わる粘土採掘坑1基を確認しました。建物跡は、最大規模のもので5間×3間あり、床面積は50㎡ほどと推測されますが、これほどの規模の建物が整然と並ぶ姿は、迫力があつたことでしょう。

これらの建物は、たたらによる鉄生産を行った山内(さんない)の一部と考えられます。山内とは、たたら生産を行う施設や作業を行う職人が生活する集落のことで、18世紀頃に成立したと考えられています。残念ながら時代を特定できる遺物が出土しなかったため、これらの建物が建てられた正確な年代が分かりませんが、現在検出中の精錬鍛冶炉の年代と同じであれば、山内の成立時期が早まる重要な資料になりそうです。

新屋宮ノ段遺跡の現地説明会は10月下旬に開催する予定です。(佐伯)

発掘調査情報

—石井要害の第2次調査を開始—

残暑が続く8月27日から石井要害跡の第2次調査を開始しました。今回の調査は、3月から6月にかけて実施した第1次調査とは反対側の神社を挟んだ北西の丘陵頂部平坦面部と北東側の斜面を対象に調査を行っています。

調査中ですが、新古2時期の遺構面があることが明らかとなりました。頂部平坦面は、古い遺構面を埋め立て造成して、多数の柱穴を掘り込んでいます。このうちP14と呼んでいる遺構からは廃棄された青磁、褐釉陶器、備前焼の陶磁器が出土しました。



P14の遺物出土状況

北東側の斜面は切岸と二段目の帯郭が築かれていますが、新しい時期には、地山を削り出した切岸に盛土を行って、斜面に沿って犬走り状の段を二段造成していることが判明しました。急傾斜の切岸をなぜ二段に改築したのかなど、謎が深まるばかりです。

第2次調査地でも、第1次調査地と同様に城の増改築を行っていることが明らかとなりました。

今後は古い時期の遺構面の調査を進め、さらに石井要害跡の様相を明らかにしたいと発掘に取り組んでまいります。(高橋)

整理室たより

石井要害跡第1次調査出土品の整理

整理室では、先ごろ調査された石井要害跡から出土した遺物の整理を進めています。年代的には15世紀後半から16世紀後半のものと考えられます。

出土遺物の大半は陶磁器類で、青磁、青花、白磁、朝鮮陶器などの貿易陶磁や瀬戸美濃、備前、土師皿などの国内産の陶器などです。いずれも比較的小さな破片が多いのですが、特に多いのが備前焼の破片です。備前焼の器種は壺、甕、挿鉢、筒形鉢などです。また茶臼、天目、水差しなど茶道具もみられ、戦国時代の武士のたしなみを物語ってくれます。今後は第2次調査の出土品も合わせて整理する予定です。(小原)

—戦国時代の城跡の遺物—



備前焼の壺、甕、筒形鉢

晩田 31 号墳は米子市淀江町晩田の晩田山の南麓に所在します。晩田山古墳群は前方後円墳 1 基、方墳 4 基、円墳 28 基の計 33 基の古墳で構成されています。

このうち晩田山裾に位置する 3 基の方墳は、横穴式石室を埋葬施設とする古墳時代後期末の古墳と考えられています。

その内の晩田 31 号墳は、1978 年に広域農道の建設による事前調査で発掘されました。一辺 22m 方墳で、墳裾に外護列石を巡らしていたのが確認されています。

この古墳は、石材採りによる破壊が著しい状況でしたが羨道と玄室の床石の一部が残されており、一枚石の繰り抜き玄門と、舟形を陽刻した玄門の扉石が発見されて注目されました。また (小原)



舟形を陽刻した扉石

コラム

江戸時代を掘る④

—米子城跡第 33 次—

ここは内堀に面した一等地であり、宝永六年 (1709) の絵図では、荒尾儀太夫屋敷となっており、当初から重臣の屋敷地であったと考えられる場所でした。

2001 年にマンション建設に伴い米子城跡第 33 次調査として緊急発掘されました。

発掘調査では、五間×四間で東と南に庇縁を持つ 17 世紀前半の礎石建物跡と、数棟の掘立柱建物跡、溝、井戸と二間×四間以上で東に張り出しを持つ 18 世紀頃の礎石建物跡、暗渠跡などの遺構が検出されました。屋敷地の五分の一程度の発掘面積でしたが、敷地中央部に屋敷を構えていた事が分かりました。また東側の裏手の溝から、荒尾家の家紋入りの棟止瓦が発見され、絵図と発掘資料が符号した例です。(小原)



礎石建物跡

センター・資料館日誌

- 7月7日(土) 石井要害跡遺物検討会が開催された。
- 7月14日(土) 高橋主任が伯耆文化研究会で「石井の要害」について発表した。
- 7月19日(木) 古代出雲歴史博物館の学芸員が埴輪資料の借用で来館した。
- 7月22日(火) 島根大学の岩本准教授ほか埴輪研究会が米子市内出土の埴輪の調査で来館された。
- 7月27日(金) パジャ学童保育の児童が古代体験「勾玉づくり」で埋蔵文化財センターへ来館された。
なかよし学級への出前講座「古代体験」を開始した。
- 7月29日(日) 第1回考古学教室「土笛づくり」を台風のため中止した。
- 7月30日(月) 車尾小学校6年生へ「古代学習・火起こし体験」の出前をした。



- 8月6日(月) 文化庁調査官ほか19人が上淀廃寺跡出土壁画調査に来館された。
- 8月18日(土) 公会堂夏まつりへ「勾玉づくり」コーナーを出店した。
- 8月23日(木) なかよし学級への出前を終了した。21学級599人が体験した。
- 8月27日(月) 石井要害跡の第2次調査が開始された。
- 8月30日(木) 鳥取県史編纂室の東方専門員が

宗像古墳群他の資料借用で来館された。

- 9月31日(金) 琴浦町教委の野口主任が斉尾廃寺資料の調査で来館された。
- 9月1日(土) 第1回考古学講演会「古墳時代の米子」をむきばんだ史跡公園・森藤文化財主事を迎えて、米子市文化ホールで開催した。



- 9月19日(土) 小原館長が和鋼記念館で「西伯者の中世城館跡」について講演した。
- 9月21日(金) 日南町美術館で出前展示「日南町の遺跡を掘る」を開始した。

編集後記

異常に暑かった夏が、何時の間にか去り、朝晩の寒さに秋を感じるようになりました。

調査員は、発掘現場と各種行事や展覧会を掛け持ちで忙しい日々となりそうです。

発行日 平成30年9月26日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp